

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成25年10月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町9-15

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(送料込)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

医学用語の講義を担当して

深田 順一

高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター 副院長
岡山会場 専門課程(医学用語)講師

縁あって「医学用語」の講師を務めさせていただいて、そろそろ7、8年になろうとしている。講義の実施要綱には「診療記録を適切に理解できるよう…必要な専門用語を習得する」ことが目的とあり、テキストでは主に英語表記の医学用語の読み取り方を学習することになっているが、私はいただいている3時間をかなり自分流に使わせていただいている。講義は毎回、すべて撮影されているので、問題があれば次年度からはお呼びがかからないはず、と勝手に思ってきたが、これまでのところ続けさせていただいている。

私は講義の最初に、その目的を、資格試験合格に役立つこと、実務に役立つこと、そして物事を学ぶ楽しさを味わえること、としてきた。言うまでもなく言葉はそれが意味するものと一体であり、意味するものの理解なしでの言葉の学習はあり得ない。この「言葉」と「実態」という関係を理解してもらうため、例えば、なぜ endocarditis という言葉があつて ectocarditis がないかを取り上げ、言葉は endo-○○ という語があれば ecto-○○ もあるはず、といった単純なものではなく、疾病の実態として、敗血症を意味する言葉が endocarditis と表現されているのであって、それに対する心外膜炎は、その実態を反映して ecto- でなく pericarditis となる、といった調子である。

しかしこのような、いわばテキストに沿った講義は全体の1/3ほどで、時間の多くはテキストを離れて、医療の中で使われる日本語の解説に割いている。一つは診療録で使われる日本語の非日常性である。診療録にある消耗を「しょうもう」と読めても心神耗弱をしんしん「こうじゃく」と読めるだろうか。この非日常性は日常でもよくお目にする言葉であれば、さらに注意が要る。「患者はショック状態にある」での「ショック」を医療職としてその理解を共有して欲しいし、このような視点を広げるものとして国立国語研究所編纂の「病院の言葉を分かりやすく」の存在は伝えておきたい。もう一つは医療用語の中にある官制用語とでも言える一群の言葉の存在である。死産や未熟児は日常語であるが、医療の特定の場面では特定の意義を持つ言葉となる。「死産」は医師法、厚生省令、産婦人科学会では定義に微妙な差異があるし、「未熟児」の定義も母子保健法・小児科学会と児童福祉法では異なっている。官制用語については、この「医学用語」の枠で、少なくともその存在については話しておくべきと考え、そのようにしている。

少し前になるが天皇陛下が手術を受けられ、その経過が少し長引いたことがあったが、これを報じる地元紙に「手術の合併症により」とあったので、私は先に触れた「病院の言葉を分かりやすく」には、このような場合は「手術の併発症により」とすることが勧められていると新聞社に申し入れたが、時期尚早との回答であった。本講義のタイトルも、そろそろ医学用語から医療用語に変更しては、と提言したいところではある。

